

2022年の当科における 経皮的脳血栓回収療法

静岡市立静岡病院 脳神経外科

米澤 慎悟

はじめに

当科では急性期脳梗塞、特に太い血管である脳主幹動脈が閉塞した発症から比較的早期の症例に対してt-PAを用いた血栓溶解療法のみならず血管内治療を用いた経皮的脳血栓回収療法を積極的に施行している。そこで、2022年の1年間で施行した経皮的脳血栓回収療法の症例、その治療結果につき報告する。

経皮的脳血栓回収療法を施行した症例

2022年1月1日～12月31日までに

経皮的脳血栓回収療法を施行した

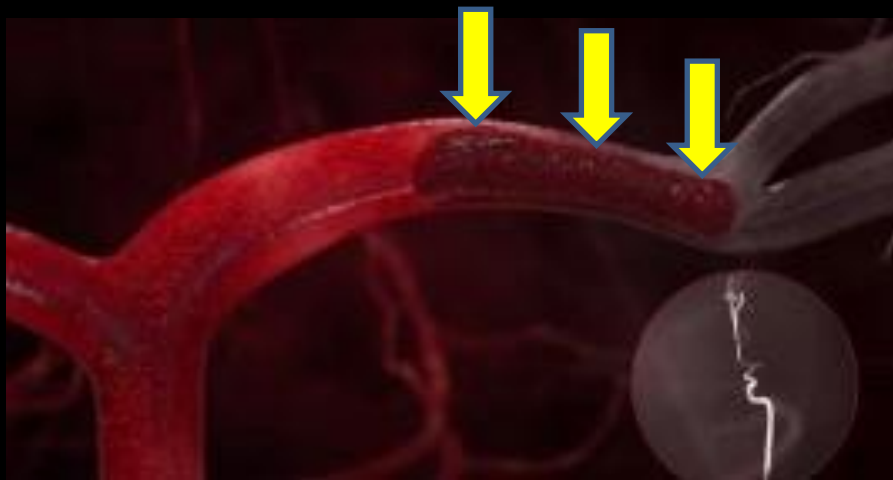
急性期脳梗塞20症例

男性：女性＝7：13

平均年齢＝77.7歳

(51～92歳)

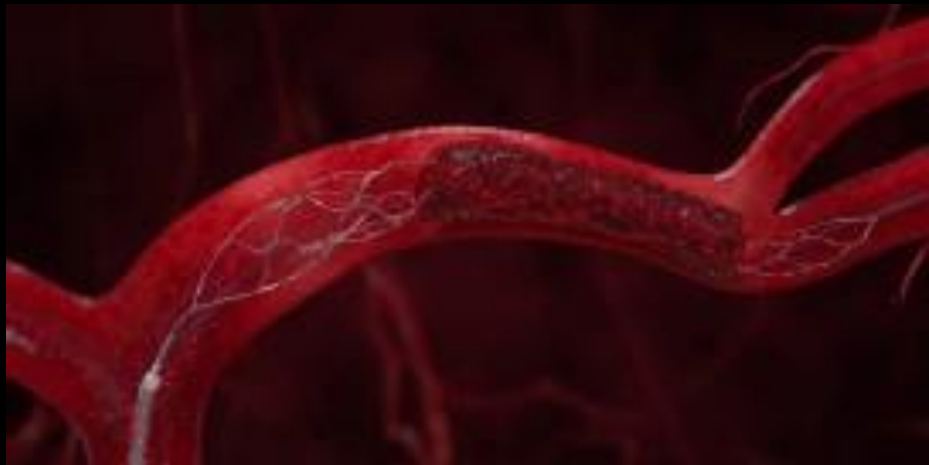
ステント型血栓回収器具(ステントレトリバー)



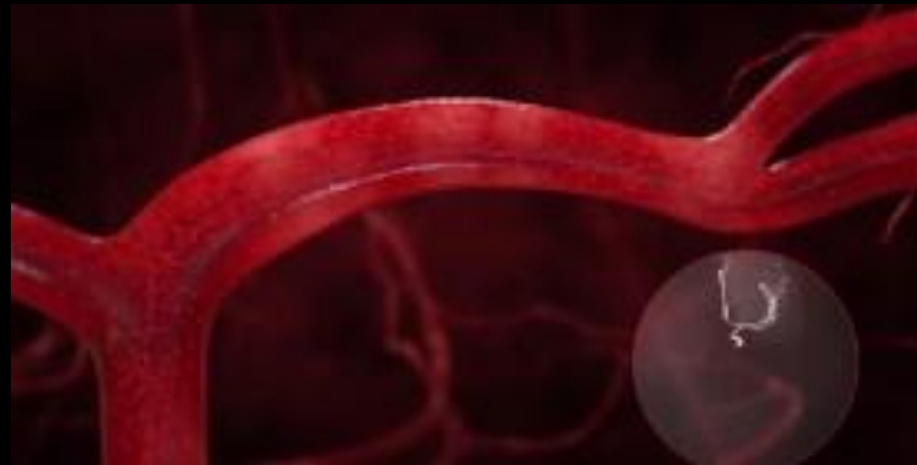
血管が血栓(矢印)にて閉塞



カテーテルで血栓を超える

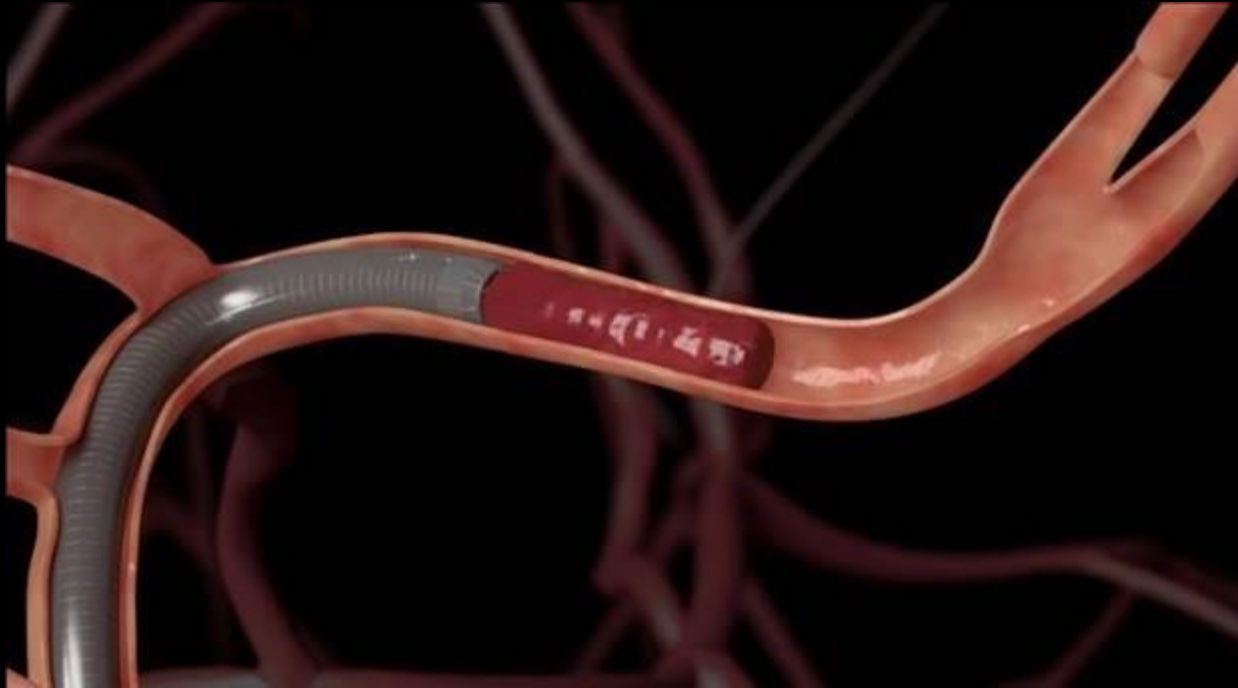


ステントを拡げて血栓を絡めとる



ステントごと血栓を回収し血流再開

吸引型カテーテルの併用



ステント型の血栓回収器具の他にも血栓を吸引するカテーテルがあるが、これをステントと組み合わせることで、より血栓が回収しやすくなる。

代表症例

87歳男性、右半身麻痺、失語症状にて発症。画像検査にて左内頸動脈閉塞しており、緊急で経皮的脳血栓回収療法を施行することとなった。

治療前(完全閉塞)



血管閉塞し先が映らない
(矢印)



ステント展開(矢印)
吸引カテーテルも
併用して血栓回収

治療後(完全再開通)



結果

今回の20症例では経皮的脳血栓回収療法にて11例で完全再開通を得た。8例で部分再開通であった。1例は再開通が得られず閉塞のままであった。

再開通の得られなかった1例はアテローム血栓性の閉塞で動脈硬化が強く回収できるような柔らかい血栓ではなかった。

まとめ

2022年の経皮的脳血栓回収療法における再開通率は95%にも及んだ。しかし、強い動脈硬化による閉塞など再開通が得られない脳梗塞症例もあった。